

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Factors related to sedentary behavior of pregnant women during the second/third trimester: prospective results from the large-scale Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中期・後期における妊婦の座位行動に関連する要因:エコチル調査からの前向きエビデンス

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Public Health

年: 2024 DOI: 10.1186/s12889-024-20574-x

筆頭著者名: 長井 麻希江

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

長時間の座位行動(Sedentary Behavior; SB)は、妊婦の健康指標や妊娠転帰に悪影響を与えることが報告されており、世界保健機関は妊婦に対して SB の時間を減らすよう推奨している。本研究の目的は、妊娠中の SB を減らすための介入として標的となり得る関連要因を特定することである。

方法:

子どもの健康と環境に関する全国調査に登録された 103,057 件の妊娠のうち、重複登録、無回答、及びアウトカムデータの欠損を除いた 83,733 人の妊婦を分析対象とした。データは国際標準化身体活動質問票を用いて収集し、多変量ロジスティック回帰モデルを使用して粗オッズ比と調整オッズ比を計算した。また、妊娠前後の SB 時間を層別化して関連要因を探った。欠損データは多重代入法により処理し、SAS ソフトウェアを用いて解析した。

結果:

平均 SB 時間は妊娠前と妊娠中でそれぞれ、5.4 時間/日と 5.9 時間/日であった。妊娠前の SB 時間が 8 時間以上(高 SB 群)の女性の割合は 25.5%であったのに対し、妊娠中は 31.2%に増加した。妊娠中の高 SB と関連する要因として、妊娠前におけるテレビ視聴やビデオゲームの時間が長いこと、世帯年収が高いこと、及び妊娠中の就業状況が挙げられた。一方、妊娠前に週 150 分以上の中強度の身体活動を行っていることは、高 SB に対する予防因子である可能性が示された。

考察(研究の限界を含める):

他の報告と同様、SB 時間は妊娠前よりも妊娠中に増加することが改めて明らかになった。SB に関連する要因として、妊娠中のテレビ視聴時間は既に報告されていたが、本研究では、妊娠前のテレビ視聴やビデオゲームの時間が妊娠中の SB 時間増加に関連していたことが明らかとなった。また、妊娠前に週 150 分以上の身体活動を行うことが、妊娠中の短い SB 時間と関連していた点も重要である。本研究の限界として、研究参加者の健康リテラシーなどの関連要因が測定されていないこと、約 13,600 人分のアウトカムデータが欠損して除外したことによる選択バイアス、さらに研究参加者の回答時におけるリコールバイアスが挙げられる。

結論:

本大規模コホート研究は、日本の妊婦における座位行動のパターンに関する貴重な知見を提供した。妊娠中の座位行動の時間の減少には、テレビ視聴やビデオゲームの時間を管理すること、妊娠前から運動習慣を確立することが関連する可能性がある。